

運動、認知機能低下の状態「フレイル」

原因解明、予防へ講座

弘大、ファンケル共同研究

弘前大学と化粧品・健康食品のファンケル(本社横浜)は5月1日付で、共同研究講座「フレイル予防学研究講座」を開設した。

構築する。企業が弘大に共同研究講座を開設するのは13例目。

運動機能や認知機能が低下する状態「フレイル(虚弱)」の原因を解明し、予防法を

講設置期間は3年間で、メンバーは弘大の中路重之特任教授やファンケル総合研究所の職員ら8人。自律神経の観点から、フレ

フレイル

加齢とともに心身の活力が低下し、複数の慢性疾患や認知機能の低下などで心身が脆弱(せいじやく)になる状態。食事や運動を中心に適切な指導を受ける(サポート)で、要介護にならずに済む。虚弱を意味する英語「FRAILTY」の訳語として日本老年医学会が提唱。介護予防の意識を高めるのが狙い。

イル予防の研究を進め健康寿命延伸に向けたサービスを研究・開発する。同社は、25日から始まる。

同社は、25日から始まる



た今年の弘前大の岩木健康増進プロジェクトに参加しており、住民のストレスや疲れの程度を測定してい

フレイル予防学研究講座の開設式で、フレイル研究に意欲を示す(左から)弘大の中路特任教授、若林医学研究科長とファンケルの炭田総合研究所長、由井慶ヘルスサイエンス研究センター長=29日、弘大医学部

る。

29日、同大医学部で行われた開設式で、同社の炭田康史・総合研究所長が「人生100年時代において、加齢に伴う身体や認知機能の低下の克服は重要な課題。健康長寿を実現する新しい概念の商品・サービス開発を目指す」と述べた。弘前大の若林孝一・医学研究科長は「自律神経の状態を数値化して、健康増進に取り組むのは斬新な研究」、中路特任教授は「疲労や緊張、ストレスが食事や飲酒、喫煙とどう関連するか、岩木プロジェクトのビッグデータによって明らかにしたい」と語った。(菊谷賢)